

# 12

## 麻しん(はしか)

Q.1

### 麻しんとは どのような病気ですか。

- 麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる病気で、感染の約10日後に、38度程度の発熱やかぜ症状がはじまり、2~3日発熱が続いたあと、39度以上の高熱とともに発しんが出現します。時には脳炎を発症するなど重症になることもあります。
- また、麻しんの感染により、全身の免疫力が低下するため、他の細菌などに感染しやすくなります。このため、肺炎や中耳炎などを合併することもあります。
- 麻しんの感染力は極めて強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ必ず発症します。
- 1歳をピークとし、乳幼児がかかりやすい病気ですが、成人もかかることがあります。

Q.2

### 麻しんにかかったら どうすればよいのですか。

- 特別な治療法はありません。症状を少し楽にする方法(対症療法)が行われます。

Q.3

### 麻しんを世の中からなくすことはできますか。

- 予防接種の徹底により、かつて天然痘が根絶され、現在ポリオが根絶されつつあるのと同様に、国際的には麻しんという病気をなくすための取り組みがWHO(世界保健機関)を中心として進められています。
- わが国でも、麻しんという病気をなくすための対策について、厚生労働省で検討を行っています。

国立感染症研究所感染症情報センターでは、ホームページ上で、  
麻しんについて解説していますので、こちらもご参照ください。

アドレス [http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03\\_03/k03\\_03.html](http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03_03/k03_03.html)

# 13

## 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)

Q.1

### 流行性耳下腺炎とは どのような病気ですか。

- ムンプスウイルスに感染することにより、両側のほおが腫れる病気で、耳下腺の腫れが2日以上続きます。「おたふくかぜ」とも呼ばれ、一部(3~10%)に髄膜炎を合併することがあります。
- 冬から初夏にかけて流行し、3~6歳に多く起ります。
- このウイルスに感染した場合、1歳児では症状が出るのは20%程度ですが、4歳以降では90%程度、症状が出ます。

Q.2

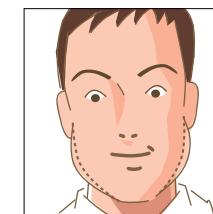
### 流行性耳下腺炎にかかったら どうすればよいのですか。

- 特別な治療法はありません。症状を少し楽にする方法(対症療法)が行われます。

Q.3

### その他、注意することはありますか。

- 思春期以降の男性では25%に睾丸(こうがん)炎を合併し、女性では30%に乳腺炎を合併することが知られています。
- 妊婦が感染した場合には自然流産することがあります。



国立感染症研究所感染症情報センターでは、ホームページ上で、  
流行性耳下腺炎について解説していますので、こちらもご参照ください。

アドレス [http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03\\_35.html](http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03_35.html)